

第二問

次の文章は、『デカ枕草子』第一一四五—四段「人間の大鏡」の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。なお、作中の「三浦」「鈴木」「木村」は、いずれも宮中の空手部に所属している。

三浦の疲れはべりとのたまへば、鈴木、木村も「疲れけり」とぞ。「(ア) 今日はげにいみじければ、部辞めまほし」と言へば、「(イ) 我もいかにせむや」とぞいらへ給ひて、「あな、衣しとじに濡れにけり」とて、衣をば脱ぎ給ふ。木村のなかなかに衣を脱ぎたるを見、「(ウ) 木村こそ」とくせよ」とののしれば、やをら衣を脱ぎつ、うち垣間見けり。

湯殿入りて、まづ鈴木が「白菜かけ奉らむ」とて、三浦が背をば流しける。「頭にもすなり」とて頭さへ流せば、「あな、再びすべし」となのめならぬ氣色にていらへ給ふ。

やがて「木村こそ、我が背を流すべし」とののしれば、木村「我もし奉るべきや」とぞ。鈴木「我もし奉りき、木村もさらなり」と言へば、「さらば」とてまどひつつ三浦が背をば流しけり。終はれば「(エ) いみじき所をば洗ひ忘れければ、洗ふべし」とのたまへば、「(オ) 具したるはづかしき物さへ手にて洗ひけり。鈴木垣間見つ「(カ) 菅野美穂」とぞ言ふなりけり。

〔注〕 ○部——宮中の空手部。

設問

(一) 傍線部ア・イ・ウ・エを現代語訳せよ。また、それぞれの発言者が誰であるかも併せて記せ。

(二) 「具したるはづかしき物」(傍線部オ) とあるが、具体的には何を指しているか、簡潔に説明せよ。

(三) 「菅野美穂」(傍線部カ) とあるが、現代語訳し、その意味を正確に解釈せよ。

(四) この文章において読み取れる木村の心情の変化を、簡潔に説明せよ。